

令和 8 年度第 2 回芽室町総合計画審議会 議事録

令和 8 年 6 月 16 日（月）18:30～20:50

役場 2 階 会議室 7、8

出席委員（10 名）

貫田会長、蘆田委員、岩野委員、小池委員、小林委員、白銀委員、若狭委員、谷口委員、
西村委員、林委員

欠席委員（5 名）

太田副会長、廣江副会長、鈴木委員、高橋委員、花岡委員

開会

議事

① 暮らしを支える上下水道の機能保全と持続可能な運営（4-3-3）

事務局から説明

■委員

埼玉県の道路陥没があったことが設備保全に記載を変えるきっかけになったのか？
単に老朽化したからなのか？

■水道課

建設拡張から維持管理・機能保全がメインになる段階にきたと考え、見直した。
前は施策に拡張があったが今回はなく、維持管理という観点から成果指標もその形に合わせている

■委員

保全という言葉が出てきたきっかけを知りたかった。
タイミングなのか全国的な社会問題としてなのか。

■水道課

全国的な事案も町の計画的な更新という部分もある。

■委員

人口が減っていくことで収入も減っていく。その中で、維持管理にかかるお金が増えるが、
町民にも負担がかかってくるのか？

■水道課

上下水道は独立採算が原則なので、経営状況を踏まえた適正な見直しは必要になると思う

■委員

成果指標①の強靱化 3 %→29%の項目の理想は 100%か？

同じく②も 100%なのか？

なぜ今まで課題にならなかったのか？

■水道課

成果指標の①②は 100%目標。今までは拡張だから強靱化ではなかった。

地震による被害の防止の観点も含めて記載

② 暮らしの安全・安心の確保 (4-1-3)

事務局から説明

■委員

1、消費者協会との連携を図りについて、消費者協会は協会と消費生活センターとあるので、内容的に消費生活センターの方が適すのでは？

2、P5(6)について、消費者協会では、遺伝子組み換えと添加物は重点課題としていない。今後4年間も予定がないため、消費者協会も関係団体に含めて、消費者協会を削除してもらいたい。

3、専門部会で出ていた(4)の資質向上の件で、言葉が不適切ではないかという意見について。物価高になり消費動向が激変していて、それに対応する相談員の資質向上が求められる。相談員の研修等も予算化しているので良いと思うが、資質向上の言葉の意味合いでは適当ではないと思う。

■商工労政課

1.消費生活センターは町が直営で委託しており、民間の消費者協会と連携してやっていきたい意味合いではあるが、調整したい。

2.検討したい。

3.資質向上の文言はかみ砕いた方がよいか検討したい

■委員

1、食品ロスの項目を増やしたのは取り組みが想定されているのか？

2、成果指標の交通ルールを守っていると思うか？の項目はいらないのでは？

自身で思っているのが、安心安全につながるとは考えにくい。

■環境土木課

1.食品ロスの観点は、ごみ処理基本計画の中でR3年から取り組みを進めていくとしていたが、R8年の計画期間終盤にきて町が取組が十分に図れなかった。食品ロスに国が力を入

れて取り組んでいることから、継続して続けていきたいことから記載。

2.町は交通安全推進委員会との啓発活動を1番の取組としている為、周知等を行ったものを町民1人1人がどう受け取り、どう感じているのかをはかる考えのもとで記載。

事故発生率も考えなければいけないが、死亡事故や重大事故は少ない為、意識から取り組んでいくことが大事である。また、4月の法令改訂による自転車の青切符の啓発を行い、町から青切符者を出さない取組とも考えている。

■委員

成果指標項目に住民意識調査が全て使用されていることに違和感を感じる。

課題に対し行った施策の結果を住民が評価という流れで、行動の結果改善されたことが成果指標であり住民意識調査はその先にあることと考える。

交通ルール徹底の活動を何件行うことができた等、子供達にパンフレットを配った等が指標に入ると考える。

町民に丸投げしている感じがして、指標として低い数値がでないのが、施策に対してすべて住民意識調査は不適では？意見

■環境土木課

具体案だとパンフレットの配布回数が成果に繋がるか等、難しい部分もある。指標の先の成果を見越して、数値指標が良いか町民への聞き方を変えた方が良いか等色々ある。

過去の専門部会にて、防犯対策の項目で60%強の数値が低いことを指摘されたこともある。どの成果指標がいいか改めて考えていく必要はあるが、数値の先にあることも考えなければならない。

■委員

1、増えている犯罪とは？

2、成果指標は主観的なものが多く、客観的なものがあれば、過去の有効な取組等があれば、変化が見えるのでは？

■環境土木課

1、窃盗が一番多い。非侵入盗（万引き等）が一番多く、R6は12件。R7は16件。

窃盗は19件（R6）、25件（R7）。

防犯協会が取り組みを強めている。連携しながら数値が低くなるように取り組んでいく。

2.成果指標は、数字をどこに持っていくか。旗の波に参加してもらっているのか、企業の交通啓発がいいのか。防犯でいけば地域防犯診断も行っているが、町内会加入者しか届かない。色々な取り組みは考えていく中で、どこに数字をもっていくか考え、どこに評価をもっていくかという中で設定している。分析の中で検証は続けていきたい。

③ 1-2-1

事務局から説明

■委員

原油価格や資材高騰がフォーカスされ、目の前の課題感が強く長期的な視点は？意見

■商工労政課

今時点での課題感で定めている。来年度から始めることであるが、実情は数年前から始まってきたこともあり、来年すぐに無くなる状況ではないという観測のもと策定している。これから続く施策を検討していく。

■委員

町内消費を目指す部分で、M カードを使うことで町内のお金が循環しているということを成果指標で載せることは可能か？

または、結果を指標上で読み取ることは可能か？

■商工労政課

結果を載っている指標でみることはできない。

M カードはデータで管理しているので、今までのようにデータを1 から拾うことはないの
で、集計も早く視覚化されることからわかりやすくなる。

■委員

パーク PFI で町に落とされるお金は、成果指標に反映できないのか？

■商工労政課

記載しているのはパーク PFI で循環できるかじゃなく、そこからどう町に引き込むかというところ。他所から入ってくるお金を地域内でどう循環していくかという部分になる。
この項目か、後記のまちづくりのどちらに適するか検討したい。

■委員

わかりやすい指標になるので検討して欲しい。

④ 担い手育成と農業の応援団づくり (1-1-1)

事務局から説明。

■委員

指標の新規就農者数について、前回の目標 50 人から減ったのは、過去 2 年の実績からはわかるが、9 年から増えないと 4 年で 29 人に届かないのでは？

■農林課

離農も多いが、近年の数値からこの数値を算出した。

■委員

新規就農者は息子が継ぐのは違うのでは？

離農の後に新しく継いだ人とかを指標を分けるのは？

■農林課

事業継承は2件あったが、道のりとハードルが高く、数値化が難しく一緒にはできないため、カッコ書きにしている。

■委員

それも含めた検討意見として受け取る

⑤ 農業生産性の向上と経営基盤支援（1-1-2）

事務局から説明

■委員

スマート農業というのは、無人トラクター等をさす？

■農林課

そうである。

■委員

普及させていきたいのは理解するが、個々の判断なので目標として指標にできるのか？

■農林課

スマート農業は、オールトカチで目指しているため記載。

個々の目標数値は記載では測れないのも事実としてある。

機械の老朽化や新規投資による費用面でのデメリットもあり、専門部会でも検討させてもらいたいとした。

⑥ 農地・土地改良施設等の整備（1-1-3）

事務局から説明

■委員

水力発電等は補助金の関係で、農業へのメリットが前面に出るが、町の予算を投じるので、トータルで考え持続可能な社会を作りたい。その点では、カーボンセットがどれくらい進んでいるのか、見えた方がいい。ここだけでなく、全体で取り組む部分が出てもいいのでは？

■農林課

小水力の持ち主は開発局であり、発電して北電に売電して、将来的な小水力発電施設の建設

費・維持管理費に充てる。残った分は町に戻して、土地改良施設に充てるので、その部分はメリットがあると思う。

⑦ 地域林業の推進（1-1-4）

事務局から説明。

意見なし。

⑧ 地域資源を活用した観光の振興（1-2-2）

事務局から説明。

意見なし

⑨ シティプロモーションの推進（5-3-1）

事務局から説明。

■委員

- 1、ふるさと納税の推進について、ふるさと納税の使い道について収入と使い道は？
- 2、ふるさと納税の実態にあった指標はないか？

■魅力創造課

- 1、個人版は8項目から使い道を選べ、その中から選んでもらって寄付してもらう。
農業が30%ぐらい、町に任せるが25%ぐらい。（R6）
- 2、大きな枠組みではしてシティプロモーションに繋がる指標ということで入れている。
ふるさと納税だけで見るとするなら金額で見るとしかなく、去年で6億ちょい。
単に税収増が目的でないのは、この施策に入っていることからとらえてほしい。
ふるさと納税をきっかけにしてシティプロモーションをと考えている。

■委員

使い道に関して、町民も参画することは可能？

どう使われて、どう町民に還元されているのかわかり辛い。項目によって担当課が決めているが、町民がやりたい事業にお金を使うことは可能なのか？

■魅力創造課

可能だとは思う。使い道に関してはネットで公表している。

制度的に寄付者が町のこういう目的のために使ってほしいと寄付してもらっていることから、寄付者の意思を優先している。

いつ制度がなくなるかわからなく、経常的な経費に使うことは難しいことから、納税者の意思を尊重している。その為、制度上町民に使うのは難しい。

■委員

すまいるアンケートの項目からは、町外に向かって発信することで町民に誇りを持ってもらう流れ見れる。成果指標で数値化するのは難しい。

内向きの結果になってしまうので、町外向けに広めたいか？のような項目があってもいいと感じた。施策内容はほぼ変わっているなかで、アンケート項目は前回とほぼ変わっていないので、検討して欲しい。

■魅力創造課

今住んでいる方には郷土愛を育み、進学で町を離れる子供たちにいづれ戻りたいと思ってもらう種まきをする取組。

次に、町外に発信していき、関係人口・交流人口を増やす。一度来てもらって住みたいと思ってもらいたい。

外向きに発信するのは、町外から町民が褒めてもらうことで響き、気づいてもらいたい。町民の意識を図る指標であるため変える予定はないが、違う場面で使えないか検討したい。

■委員

1、指標が全部意欲だが、意欲で測れるのか？ボランティアとか町内会の数とかの項目があってもいいのでは？

2、内向きの郷土愛等がベースにあって、次に外向きの話となる。内向きの言及が終盤に少ししか出てこないなので、文言を見直してもらいたい。

■魅力創造課

1、指標については、施策の中に色んな事務事業が入っているから、わかりづらくなってしまう。取組が積み重なった時に施策全体で成果がわかる指標にしたい。

2、記載については担当課で検討したいが、どちらかに重点を置くようなことを決めてないが、偏りがないように検討したい。

■委員

シティプロモーションの一番の対象は町民意識とすると、芽室町が好きな町民の割合とかの指標に反映されると思う。事務作業によって反映されてしまうが、この指標等を参考にすることで、わかりやすくなるのでは？

■魅力創造課

指標についてはわかり辛い部分もあるが、それぞれの事務事業の中で目標は必要である。人口が減っていく中で、生き生きとした街づくりにおいては、今の町民だけでは厳しい。町民じゃないが、力を貸してくれる人を増やしたい。

周りから褒められることを増やす。魅力を外に発信していくことが大事、表現は工夫したい。

■委員

外から褒められるという表現は違うのでは？

家族が好きな子供が、外から褒められるから好きというわけではない。

ダメとは言わないが、表現で誤解を招きそうである。

■魅力創造課

内外同じスタンスで進めていく為、偏っていくわけではない。文章は工夫したい。

■委員

1、前はふるさと会の課題解決・仕組みづくりに対して言及していたが、今回無くなったのは解決できて仕組みができたからなのか？

2、新規就農・山村留学・福祉就労の関係機関と連携して関係を進める文言をなくしたのは連携しないということか？

農村地域の移住定住は現実的ではないので、対策を入れてほしい。

3、まちなか再生の推進とあるが、シティプロモーションは町全体なので、まちなかだけでなく農村部も含む文言にしてほしい。

■魅力創造課

1、ふるさと会は解散し、旭川だけが残り年1回集まる会になった。課題についても、一定程度方向性が見えて、一旦目途がついた。

2、移住してくる方が、街中か農村か希望に合わせて物件紹介していきたいため、この文言。

3、どの自治体も駅前や中心市街地の賑わいが疲弊感に直結する為、農村部に何もしないわけではなく、まずまちなかから。

記載がなくなったから、やらないわけでない。力を入れる記載を総計には載せている。

⑩ 国際・地域間交流の推進（5-3-2）

事務局から説明。

■委員

都市と農村の交流推進について、やまなみのことを魅力に相談したらいいということか？

■魅力創造課

違う。やまなみは教育委員会。

■委員

国際交流の意義は理解できるが、もう既に住んでいる人たちについての施策はどこの課の

所管か？

■係長

既に住んでいる外国の方たちについては多文化共生になるので、政策推進課所管。

どこに記載になるか検討していきたい。

■委員

外国の方のよる細かい問題がイメージや、芽室町の愛着にも大きく関わるので検討してもらいたい。

⑪ 住民自治の実現と地域の活力の維持（5-1-2）

事務局から説明。

■委員

イベント型→課題解決型について教えてほしい。

■魅力創造課

エリア単位で集まり、イベントをやるのが主な町内会の内容だったが、加入率の低下でイベント参加を目的にするのが難しい中で、課題を解決するために人が集まることが大事と考え記載。

■委員

自身の町内会で一律型から選択型へということを相談した。

会費も段階的に分けて、最終的には防災・ごみ処理の部分を目的にしている。まだ町内では摩擦が聞こえてこないが、町内会関係で昨日会議をしたところ、今後は中身を変えていく必要があるため、これからもお願いしたい。

未加入の人たちへ準会員制度の呼びかけをしてみると、会えた人の9割ぐらい入ってくれた。加入率も50%ぐらいから74%ぐらいになった。

■委員

町内会の機能の部分で、地域運営組織が少ないことが北海道の課題と聞いている。

今後、地域を地域運営組織にしたいのか、ボランティアやNPOを進めていきたいのか？

■魅力創造課

地域運営組織は将来的に必要なと思う準備をしているが、連合会とは今の町内会の加入率等を何とかしようという方が強い。

今も住民自治が成り立っている町内会もあるため、穴埋めするより、近隣町内会エリア内ぐらいで考えたい。

町内会を地域運営組織にしようという考えはない。

■委員

- 1、施策に関わる取組について、地域集会施設の記載がなくなった理由は？ハード面だけでなく、住民活動のしやすさ等もあり、そういった視点も感じた。
- 2、過去からだが、38ページの施策に近いのではないかと？自治基本条例の推進の項目。
- 3、住民が感じる主観的なものと別で、客観的な実績や実態がわかるデータがあればと思う。

■魅力創造課

- 1、違う施策に移った為、記載がなくなったわけではない。地域集会施設は町内会のための施設ではないが、地域の人が使うことは重要なことである。場所にとらわれず、団体や組織がどのような活動をしていくか施策の中で考えていきたい。

■政策推進課

- 2、部門的に重なる部分もあり、主な取り組みでということでこちらに入れているが、記載方法は検討したい。
- 3、客観的なものと主観的なもののバランスは難しいが、全体的に見ながら調整したい。

■委員

地域集会施設の文言は消えたが、魅力で問題等を聞いてもらうことはできるか？

■魅力創造課

29ページのコーディネーター機能も町民活動支援センターが大きい役割を担っているが、各団体の相談にもなる。
施設は場所であり、活動自体の問い合わせは魅力創造課へ。

■委員

地域集会施設の使い勝手がいいところ悪いところが出てきているので、結果を話す場を設けてもらいたい。

指標として住みたい町民の項目は適切か？人間関係が密になるから住みたいだと思いが、生活のしやすさにも左右されると思う為、検討してほしい（意見）。

⑫ 消防・救急の充実（4-1-2）

事務局から説明。

■委員

普通救命講習について、通常業務の中で年間どれくらい開催が可能なのか？

■消防署

回数は数字では示せないが、講習の受付はだいぶ前から可能で、受付時に出来るものは全部出るという形をとっている。

初動の処置が早ければ救命率が上がるので、消防としては参加人数が増えれば嬉しい。

15 歳～64 歳までの大まかな人数の 1 万のうち 2 割の 2000 人を目標にし、そこまで求めていきたい。消防はシステムのすべて通報受けてからの出動なので、到着までの活動が救命率上昇に繋がっていく。

■委員

町内会の中には消防団の後援会費を納めていないところもある。

過去の経緯も含め、防災や消防の意識と理解を高めていくことをやっていくべき。(意見)

⑬ 災害に強いまちづくりの推進 (4-1-1)

事務局から説明。

意見なし

⑭ 親切・便利な行政サービスの推進 (5-2-1)

事務局から説明。

意見なし

⑮ 効果的・効率的な行政運営 (5-2-3)

事務局から説明。

意見なし

⑯ 健全な財政運営 (5-2-2)

事務局から説明。

意見なし

全体

■委員

スケジュールがきつすぎる

閉会